

## 第10回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年11月4日（火） 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝  
部会員 山田 正幸  
稲葉 一彦  
工藤 隆行  
堀井 貴之（市庁内検討委員会 部会長）  
【総務部次長】
- ◆ 欠席部会員 副部会長 渡部 雅子  
部会員 田中 寛志  
川島 雅司  
松本 崇之  
成田 育磨
- 事務局 西川原主査、菊地主査、秋田主任
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

### ◎部会長

今日は第3節【進み続けるまちづくりのための基盤づくり】についてを協議したいと思いますが、この項目は3期計画で新たに設けようとするものです。

まずは事務局から内容についてお話しただいて、意見があれば出してもらえればと思います。

### ◎事務局

第3節【進み続けるまちづくりのための基盤づくり】ですが、資料は20ページの下の部分になります。

第3期基本計画に新たに搭載しようとするものではありませんが、内容については、これまでも当たり前に行ってきたものであり、これまで以上に市民から信頼される行政となるため、明文化して位置付けましょうと追加しました。

社会情勢の変化によって行政も変わっていくのが当然で、地方分権といいますが、国に頼らず自主性や自立性をもって行政運営を行わなければいけないと言われていています。

その中の手法として協働のまちづくりのようなものもあるのだと思いますが、市民に対して公平公正で透明性を確保した行財政をすることが大切ですねというのが「1 行政機能の充実」「① 公平、公正な行財政の推進」に書かれています。

そのためにはもちろん市職員の質を高めていかなければいけませんので、職務職責に見合った能力を発揮するために、適切な定員管理を行ったり、能力に応じた適材適所な人事管理も必要です。

新規採用職員を任用するなどにより、職員の質の向上に日々研鑽しなければならないということがこの中に書かれています。

そうしたことで市民の信頼を得ることが大切と考えます。

また、市税債権や土地などの財産管理を適切に行い、税金の徴収率を上げる、納税を啓発していくことで自主財源を確保していく。

また、歳入だけでなく歳出側も事務事業の精査を行い、コスト意識を持った中で事務を行っていくということを書いています。

これが「① 公平、公正な行財政の推進」になります。

次に「2 市有財産の管理」「① 市有財産の計画的な利活用の推進」ですが、市も土地を持っています。

元々は施設の建築や何らかの用途のために取得したものが多いのですが、計画変更等で使用していないものもありますので、将来使う予定のあるもの以外は売り払いを行うなど有効活用を行います。

最後に「3 効率的な公共施設の管理」「① 公共施設の適正な運用」ですが、市の公共施設は軒並み老朽化が進んでいて、昨今の少子高齢化や人口減少等の情勢を見据えると、今の公共施設はどうなのかということを行政管理グループで各町内会を回りお話しさせていただいています。

その中で公共施設のあり方について、方向性を定めながら、できるだけ使えるものは使えるように延命化をしたり、施設の状況などによっては統合、廃止を含めて検討しますし、必要であれば新設することも前提に定めていこうというのがこの項になります。

住みやすいまちづくりのための基盤としては、公共施設が市民生活に与える影響は大きなものであると考えますので、この体系図に位置付けています。

確かに、幅広い行財政運営と言ったものがこの3つですべてカバーできるのかと言えば違うのかもしれませんが、基本的には公平公正で市民の信頼を得る、土地や公共施設を有効に活用していくというあたりでこの体系を表現しています。

## ◎市庁内部会部会長

皆さんは登別市の財政は厳しさを、どのように受け取っていますか。

## ◎部会員

その前に、この第3節は必要なのかと思う。

ごく当然のことであって、あえて登載する必要はないと思う。

計画として当てはまらない気がしてならない。

### ◎市庁内部会部会長

公平、公正な行政運営や行政運営の透明性向上というのが流行り文句のように言われていて、昔は行政がある程度自由にやっていたが、最近はすべて公開したほうがいいと言うことになって、そういうことが背景にある。

### ◎部会員

これは「住み続けるまちづくりのための基盤づくり」ということになるのか。

行政基盤の充実だとか市有財産や効率的な公共施設の管理などは、計画でどうこうではなく、当然のことだし、建物は古くなれば壊れるし、ここにはなじまない。

### ◎市庁内部会部会長

最近の議会や決算委員会でも、議員から公共施設は本当に大丈夫なのかという意見がよく出ている。

### ◎部会員

だとすれば、そういう部分を書けばいい。

計画的な行財政運営を図るというなら、ここに何年後にはどうなっているということをつたえればいい。

延命ができる建物だってそうそうない。

### ◎事務局

延命化は絶対に不可能と言うものでもない。

きれいかと言えば微妙だが延命化は出来る。

### ◎部会員

公共施設の統廃合はすごいことだけど、できないと思う。

### ◎事務局

現在見直しを図っていますが、現行の公共施設整備方針としては、老人憩の家などの小規模施設はもう30年以上経過していて、今後は維持していくことも難しい施設もある。

現行の公共施設整備方針では、基本的には中規模施設を造り、小規模施設は廃止していくというのが考え方です。

### ◎部会員

廃止するというのは、町内会が使用しているわけだから無理な話だ。

## ◎市庁内部会部会長

皆、人口が減ってきて施設を減らしていくのは当然と、その話には賛成だけど、実際当事者となると反対する。

## ◎事務局

実例としては若草つどいセンターがあって、中規模施設を建て、予定通りであればその範囲にある小規模施設は廃止するか町内会に譲るというルールです。

ですが、やはり難しいし、足腰弱った人にそこまで歩けというのか、狭くても身近な方がいいという考え方も根強い。

反面、若い世代にとっては車で行けるのだから、子育てなどの施設がある程度揃った中規模施設が欲しいというニーズもあるのですが、登別市には両方に投資する体力はないので皆さんどうしますかとなります。

## ◎部会員

それであれば、明記してしまうのはその計画との整合性が取れなくなってしまう。

## ◎事務局

公共施設のことだけを言うと、あり方について近々に方向性を定めるということになっています。

## ◎部会員

連合町内会で賛成だとしても、単位町内会で反対意見が出るのではないかな。

それならば町内会で維持管理しますとなれば、お金がないのにできるわけがないというのが今の状況で、断固としてやるという意思表示をするのはいいかもしれないが、努めるという表現ではいけない。

## ◎事務局

今はトップダウンではなく地域の意見をというところを大切にしています。

## ◎部会員

計画的なものではできないのか。

## ◎事務局

何らかのものはできると思う。

ただ、市の考え方としては昔のように行政が決めたからということはやりたくないの、

まずは意見を聞いている状況です。

本当は全体で統一したルールを示せばいいのですが、それだと各地区のきめ細やかな対応にはならないので、今は各地区に話を聞いて、地区ごとに考え方が異なることも許容するのかというところです。

温泉と市内でも違うし、住んでいる世帯層によっても意見は違う。

例えば富岸などは若い世帯が多いので中規模施設が欲しいという意見が多いです。

### ◎市庁内部会部会長

おそらく、これから町内会も大きく変わるでしょう。

退職年齢が65歳になり、それから町内会をやるとしたら、担い手が厳しくなっていく。もしかすると町内会同士の合併という状況も来るかもしれない。

### ◎事務局

正直なところ、一つの意見にまとめるのは本当に難しい。

老人憩いの家の畳一つにしても、今の若い人だとアレルギーやダニがいるからフローリングにしてくれと言う。

畳がいいという世代もいるが、足腰が悪くなってくると座れないから椅子が欲しいとなる。

ニーズは多種多様だが、すべてに答えるほどの体力は行政にはない。

### ◎市庁内部会部会長

集会所は、時代の流れに合わせて作っているのので、老人憩いの家と婦人研修の家や児童館など複数の施設がある。

### ◎部会員

それらが隣接して建っている地域もある。

### ◎事務局

枠組みを外して、コミュニティセンターのような名前で統合して、二つ並んでいるなら老朽化している方を駐車場にするなど臨機応変に対応して、今あるものを長く使うという計画を作りたい。

### ◎部会員

町内会で1軒持とうとすると大変で、修繕費用が市から出たとしてもわずかだと思う。

### ◎事務局

指定管理者で赤字になっているところはない。

ただ、大規模な修繕の順番が来るのを待っている施設はあると思う。

### ◎部会員

簡単に町内会がと言っても、町内会に携わっている人がそういるわけではないから、市がお金を出してくれるから直すけども、直すまでに時間がかかるというのもある。

### ◎市庁内部会部会長

修繕費もばかにはならない。

毎年1件30万円ずつ出しても、たまると何百万となる。

### ◎部会員

施設はどれぐらいの数あるのか。

### ◎事務局

老人憩の家は、確か41だったと思います。

これだけ細かく集会施設を持っている市はないのではないかと思います。

デメリットでなくメリットとして考えるならばいいことだと思います。

### ◎部会員

これだけあると手放さないとなるし、統合するとなったら、町内会同士でもめることもあるだろうし。

### ◎事務局

町内会の数とイコールにはなっていない。

### ◎部会員

自分たちのところにあるものは自分たちのもの。

他の人が使おうとしたら排除する。

### ◎部会員

統合するにしても棲み分けが難しい。

### ◎部会長

道営住宅には集会所が必ずあるが、私が使わせてほしいと思った当時は、使用頻度が低

いところがあったようだ。

使わせてほしいと交渉したが難しいとのことであった。

そこは地域にどういう施設があって、市が管理する施設だけでなく、他の公共施設についても見てもらって、その中で地域住民でどのように使うのがいいのか。

どっちかといえば合理化して中規模施設を広域的に作った方が、畳もフローリングもあるという施設の方が、有効に多目的に使える方がこれからはいいと思う。

### ◎市庁内部会部会長

団地や市営住宅には地域単位での自治会のようなものはないのか。

### ◎部会長

当時は出来ていないところもあったようだ。

### ◎市庁内部会部会長

実際には使用頻度が少ないところがあるということですね。

### ◎部会長

団地の中で管理する体制がものすごく難しい。

道営住宅の集会場というのは、管理費はすべて道が持つのか。

### ◎事務局

基本的には共益費で賄っていたと思います。

### ◎部会員

今市民の声を聞いている段階だが、やはりある程度、行政としてこういう風に進めたいというのは言った方がいい。

全ての人に納得してもらうことはできない。

最終的に決まった時にもめると思う。

### ◎部会員

体系図は断言するような文言でなければならない。

### ◎事務局

部会長は小規模施設を合理化してでも、中規模施設の方が最終的にはいいのではないかとのことですが、現行の公共施設の整備方針がその考え方になる。

ただ、なかなかうまくいかない現実もありますし、行政が強権をふるって廃止と言え

できるのかもしれませんが、そうもいかない。

先ほども話した通り、細かく老人憩の家があるのもこのまちの売りにもなるのかなという考えもある。

もちろんこの課題は難しく、この部会の中で腹を割って話したとしてもまとまらないかもしれない。

### ◎部会員

土地の問題もあるけれども、各連町単位で中規模施設を建てていくのが一番いいのではないか。

### ◎事務局

一定の駐車場を用意して、中規模施設を建てる。

どうやって行けばいいと聞かれたら、車で来てくださいという形にはなる。

### ◎部会員

歳をとると歩けないし車に乗れない。

歩くのが大変となった時は、どうするのか。

### ◎部会員

連町単位でもそうなるのか。

### ◎事務局

中規模施設となると、相応の距離になる。

冬もあるし、正月に新年会を行うとなって30分歩くとなると酷なんでしょうが、何度か言うように両方を維持する体力はもう無い。

ですので、今まとめているあり方について、一度作れば5年なり10年なりはそれに従って行うことになる。

### ◎部会員

中規模と言うのは、時代の流れからすると合理的だし、確実にいいとは思いますが、身近ではないので自分のまちではない感覚になる。

管理などを他の方に任せきりになってしまうところもでてくるような気もしますし、自分たち若い世代からすると、その地域に集会所があつて、自分もそうなのですが、近所と触れ合える場所はそこしかない。

そういった場所で町内会の方たちと触れ合うことで、自分も手伝わなければいけないという気にもなる。

世代間をつなぐ媒体という側面もある。



## ◎事務局

中規模と言うのは、具体的に何かやりたいことに対して、機能を求めている人には最適なのですが、小規模の場合は、集会施設が欲しいということに加え地域の拠り所というか、心のつながりを求めているように聞こえてくることが多いのは確かだと思います。

例えばお祭りの拠点になっていたりもします。

## ◎部会員

七夕祭りでも、近所のお母さんたちを連れてこないといけないから、声掛けをする。

それを良い形で手伝ってもらえるのも小規模ならばやりやすいかなと思う。

## ◎事務局

ここの公共施設のあり方については、庁内で話をした時も、文章は多少異なりますが内容は全く同じで、「少子高齢化、人口減少等の社会情勢を踏まえ、既存施設の延命化、統合廃止等または新設を含めた公共施設の在り方について方向性を定め、効果的効率的な運用に努める」が適当かなと協議を進めている。

## ◎市庁内部会部会長

実際問題、間違いなく人口は減ってきて、地方交付税は減っていく。

それから稼働年齢層、18歳から65歳までの年齢層が、団塊の世代が引退したら税収がぐっと落ちる。

## ◎事務局

当然人口は減らないように努力していくが、公共施設と言うものをピンポイントに見たときには、社会情勢の変化として人口減少したらどういうニーズになるのか、富岸などは子育て世帯が多いが、いずれ巣立って50代60代の人に住むまちになった時に、今はコミュニティ施設が欲しいと言っているが、それは子育てメインでいいのか。

いろいろ現実を見ながらどうすればいいのかについてを共に考えましょうというステップです。

担当の話を聞くと、協議の中では結局役所の結論は何だと聞かれることが多いようですが、今は人口減少でこうなるかもしれない等の基礎情報を出して、一緒にお話ししていきましょうということを行っている状況です。

## ◎部会員

公共施設の見直しと言うのが、市が何を狙って、テーマとして与えているというのは、答えは皆わかっているけど、行政はなかなかその先の話はしない。

遠まわしにするけど、市民は皆わかっている。

ただ、魅力あるまちづくりと言うのは、基本計画に当たっての一番の条件だと思う。

人口減の対策や移住者を増やす、魅力のあるまちにするために、公共施設が魅力のあるまちづくりの大事な要素になってくる。

それには二面あって、例えば小規模で行う施設、今あるものの他に、何か大きなことをやるための施設がいる。

富岸あたりがいい例で、会館はあるけれど、150人200人集めて何かをやるとしたら、そういう箱がない。

両方がそろって初めて魅力のある地域になってくる。

そこをどう考えるかだと思う。

### ◎事務局

それは市民会館しか大規模なものはない。

あとは小規模がある。

若草などは中規模のものを建設して運用しています、と言うのが今の現状です。

今富岸の人口がぐっと増加してそういうニーズも増えて、市民会館は遠いとなった時に、富岸つどいセンターのようなものを建てるべきなのかというものもテーマです。

### ◎部会員

鉄南地区であれば鉄南ふれあいセンターがあるが、背中合わせで永和園がある。

ならば永和園は無くてもいいとなるが、そうすると鉄南ふれあいセンターが小規模の会議を行うための構造になっているかといったら、なかなかそうはなっていない。

これから建築するものはそういうことを考慮するから良いが、すでに建てられているものについてはそういう面では使い勝手がいいとは言えない。

やはり、今の状態をある程度維持して、富岸地区には中規模施設を建てざるを得ないと思う。

登別の婦人センターは端にあるから、真ん中に一つ建てる。

その新しい建物は小規模の会議等が行えるような使い勝手のいいものにする。

### ◎事務局

婦人センターの件は何度も伺っていて、熱意は十分に伝わっているので、なるほどなと思う部分もある反面、他の地域の住民の感覚と言うか、客観的には、婦人センターはいらないからと、近隣に新たな施設を建築して婦人センターを壊すとなったら他の地域の人はどう思うのかというのもある。

### ◎部会員

そういったことから、この計画の中でこの節というのは本当に必要なのか。

もちろん、やらないといけないのはわかっているけれども、いらぬのではないか。

### ◎市庁内部会部会長

このままではいけないからピックアップされている。

今までは人口が右肩上がりで何とかなっていたから今まで通っていた。

これからは頑張るって人口を減らさないようにしても、どうしても減っていくだろうというのが頭にあって、おそらく今のままでは絶対に維持できない。

だからクローズアップされました。

ただし、使えるまでは使いましょうという思いはある。

### ◎事務局

職員の質も上げ、市民からの信頼を得ることが市民協働の基礎ではないかと考えます。

その様な思いを再確認するためにも計画に載せて位置づけた方がいいのではないかと考えました。

おっしゃるとおり、本当に当たり前のことであって、載せないからやらないのかと言われてたら当然そのようなことはないと言います。

### ◎部会員

この政策に記載されている文言が違和感があって、片方で交付税も少なくなるから維持できませんと言っているのに、ここでは「進み続けるまちづくり」と言っている。こんな項目でやるのだったら無い方がいい。

ここは、何が必要かということ踏まえて、最終的に公共施設の維持管理はどうするかと言うところに持って行って、市民が理解できるような文言に変えないといけない。

これは一昔前の言葉だと思う。

登別の人口が6万を超えるというような時期に作ったような文言に思える。

### ◎事務局

「上がる」と言う意味ではなく、どのような社会情勢であっても立ち止まるわけではありませぬので、進み続けるためには、行政はきっちり市民の信頼を得なければいけないし、不要な土地は売っていかねばいけないし、当たり前のことだけども当たり前のことをきっちり位置付けて当たり前に行いますというのが今回のポイントです。

人口が減っていくかもしれない、でも我々も市民の方も一緒にこのまちに住み続けなければならぬし、そのための基盤として行政はしっかり働いていく。

その意味を込めた言葉ではあったのですが、けして右肩上がりのための基盤づくりのつもりではない。

### ◎市庁内部会部会長

先ほども施設は効率的に使うという話があったが、確かに高齢者の集会や絆を高めるような施設と言うのはいろんな意義がある。

これからの時代を見た時にどうとらえるか。

### ◎部会員

市としてはどうありたいのか。

### ◎市庁内部会部会長

児童館など、少子高齢化に向けたものの充実に向けて進めている。

### ◎部会員

ここには高齢化社会に向けたまちづくりの推進と記載してみてもどうか。

そうすると高齢者が集う施設はどうするのかということにつながっていく。

### ◎事務局

高齢者だけかと考えたときに疑問がある。

### ◎市庁内部会部会長

地域のコミュニティと言う言葉に置き換えるか、絆と言う言葉にするか。

### ◎事務局

魅力的なまちをつくるためには子育て世代を取り込みたいというのがありますし、室蘭の企業でどのぐらい転勤があるのか把握していませんが、実際に転勤してくる方は多くいると思う。

室蘭は今、子育てに力を入れています、室蘭に住むか登別に住むかとなった時に登別を選んでもらいたい。

### ◎部会員

やり方ひとつでできると思う。

### ◎事務局

引っ越そうと考えている方が、普通なら室蘭に勤めるなら室蘭で探すはずなので、登別と言う名前の露出を増やすですとか、どれだけ魅力のある施策を打てるかというところにかかってくると思う。

その中で公共施設は必ず一つの要素になると思うので、高齢者と分ける対応はしたくない。

## ◎部会員

自分は室蘭から移住してきたので、このまちは子育てに力を入れていると思うし、身近なフォローにもとても感謝しているし、越してきてよかったなと思っている。

勤めているのは室蘭の企業だが、室蘭より登別の方が地域、行政との距離感が近い気がする。

それこそ今回のような会議に出させてもらって行政の職員と話せる機会も、室蘭より近い気がします。

室蘭と比べたら、魅力は絶対に勝っているだろうし、自分はこのまちに住んで本当に良かったなと思っている。

室蘭は施策をやっているのはわかるが見えにくい。

子育て支援センターなどの身近なつながりやそのスタッフのホスピタリティなど、子育て世帯にとって登別は住みやすいのかなと思う。

## ◎部会員

そういう意味では、登別に住みたいと思っている人はたくさんいると思う。

そういう魅力を基本計画に組み込んで、人口を増やすというよりは維持していかなければいけない。

## ◎市庁内部会部会長

施設をどういう風に生かすかだから、すべてを縮小していくという話にはならないと思う。

## ◎部会員

「2 市有財産の管理」はいらないと思う。

土地も施設もどちらも市有財産であえて書く必要もないのではないかな。

## ◎市庁内部会部会長

単独で起こさず、2と3をくっつけてもいいと思う。

あえて分ける必要はないのかもしれない。

## ◎部会員

「進み続ける」というタイトルが引っ掛かる。

## ◎事務局

まとめますと、進み続けるに違和感を感じることに、2と3は統合できること。

①については、これも庁内で検討した結果としては、長々と書いているので箇条書きに

改めまして、「適材適所の人事管理や時代に則した職員研修等を実施し、適切な定員管理に努めます。」「市税等の自主財源の確保に努めます。」「自主財源の確保を図るとともに、事務事業の見直しなどによる歳出の適正化に努め、持続可能な財政運営を行います。」となっています。

また、広域による情報システムの開発をこちらに移し、「広域による情報システムの開発運用により、様々な情報基盤の整備や事務の改善を図り、事務の向上に努めます。」、最後に「様々な事務事業との精査改善等により、公平公正な行財政運営に努めます。」ということで、財政的なもの、行革の計画に載るようなものがこの項目というイメージで考えるとわかりやすいかもしれないです。

ここをしっかりと行うことによって、市民に信頼される行政になろうというところがここには書かれています。

### ◎部会員

この政策と施策は言葉が違うと思う。

信頼に答えるのは当たり前だ。

### ◎事務局

当たりのことを当たり前に行うのが当然だと思いますが、事務のミスが過去にありまして、一回のミスでも完全に信頼を失ってしまうというのは我々も十分に実感していますので、このようなことに努めていきたい。

### ◎部会員

公平公正という言葉がものすごく色々な面で歯止めをかけている。

はっきりいってやる気を失わせているのはこの言葉だと思し、どうしてもいいようなことにも公平公正と言っている。

公平公正と言えどどこでも現状維持になってしまう。

### ◎事務局

我々の本旨でもあるので、「公平公正に取り組まない」とは言えない。

### ◎市庁内部会部会長

先ほど言った協働の部分の基礎となるから、書かなければいけない。

### ◎部会員

要するに、福沢諭吉が言っているだけであって、皆が平等だ。

だからこっちが良くてあっちが悪いとはできない。

それはわかるけど、言葉がだめだと思う。

### ◎事務局

公平公正と言う言葉を体系図のこの場所に使うことについては検討してみます。

### ◎部会員

この書き方だと「市民の信頼に応える行財政運営」が「進み続けるまちづくりのための基盤づくり」になるがどうなのか。

### ◎事務局

担いあうまちづくりを目指すためには、これまで取り組んできた行政運営全般と言うのを基本計画に明確に位置付けて、適切に業務執行にあたることが大切だと思っている。

そこで市民を信頼に応える行財政運営という形でこの三項目をあえて位置づけました。

これからも、当たり前のことを当たり前で明文化して、当たり前のことを当たり前にする。

### ◎部会員

なぜ今この項目を起こしたのか。

### ◎市庁内部会部会長

それが担いあうまちづくり、第6章を俯瞰した時に、市民協働の基礎ではないかということで、協働を進めていくうえで今までの行政と形だけの協働ではなくて、信頼しあい、情報の透明性も高め、分かち合っていく。

### ◎事務局

体系図を俯瞰した時に、必要なのではないかと言う考えです。

我々が適当な事務処理をしていて、売るべき土地も売らないで、何の歳出削減もしないでいたら、協働のまちづくりをやりたいと言ってもまずは行政をしっかりしてから出直してこいとなる。

### ◎部会員

それならば、この項目は第3節ではなく第1節にすべきではないか。

### ◎事務局

行政に関連することが先に来るのは無いのかなと考えました。

当たり前だろうと言われても、6章と言うものを見たときに、行政が信頼されるという

ことは協働のまちづくりに当然必要なことだということです。

ただ、パーツの配置が悪かったのかもしれない。

先ほどの2と3については統合を検討します。

### ◎部会員

今の市の財産というのは一覧になっているのか。

### ◎市庁内部会部会長

なっている。地目や面積などは出している。

### ◎部会員

室蘭は町内会が使う施設は、多少の補助は出ているが基本はすべて自前で、登別にある老人憩いの家などの施設は昔に一斉に作って、それずっと続いて、足りないところに建て増しをして現状に至っている。

市の方がこれを何とかしなければいけないというのは、掛かる維持費や建てなおしの費用は出てこないということか。

### ◎市庁内部会部会長

新しくすべてを建てなおすのは難しい。

### ◎部会員

ならばどうすればいいのかとなると、減らすしかないと思う。

### ◎市庁内部会部会長

修繕で終わっているうちは、新しく立てずに維持しているのが一番お金がかからない。

### ◎事務局

行政が建てるとなると、とても高額となる。

### ◎部会員

それは市がやるからであって、2千万もあればできる。

### ◎事務局

一定の単価で積算しているので高くなるのが実情だが、安く抑えるための手法はあると思う。

ただ、どうしても建てて移譲するとなると、財産になるので、町内会側も法人格を持た



なければならないという別な問題も出てくる。

#### ◎部会員

それは絶対にあると思う。

#### ◎部会員

公平公正と言うのは、職員が市民から文句を言われなかったための最大の手段だ。

#### ◎事務局

特定の地域や人に偏るようなことはしない。

我々の本旨だと思います。

ここままでどうでしょうか。

2と3についても統合の方向で検討してみて、3節を維持したいと考えている。

#### ◎部会員

「2 市有財産の管理」も、市有財産の有効活用とかそういう言葉ならまだいいが、管理するのは当然だ。

#### ◎事務局

言葉はそうなっていますが、使う土地を売るつもりはないので当然使いますし、使うことのない未利用財産と言われるものについては民間に売って活用していただき、ひいては固定資産税に繋がるし、まちの元気にもなるだろうというのがこの考え方です。

ただ、公共施設とかぶる部分もあるので、統合してコンパクトにする案を作成してみます。

その様な形で3節をまとめていただいて、字で見ないとわかりづらいと思いますので、まずは作成してみます。

#### ◎部会員

同じ有効活用でも、遊休施設を市民に提供して有効活用するのと、行政の管理があって有効活用するのでは、どうやって有効活用するのかとなる。

#### ◎事務局

「管理」と言うのが我々の思いが伝わりにくいのかなと思いますので、2と3を統合するという箇所と併せて検討します。

#### ◎市庁内部会部会長

一度まとめたうえで、織り込む段階で、今まで意見あったこともまとめて、精査したい。

## ◎事務局

体系図に反映できるもの、できなくても思いとして頂戴するものを提言書としてまとめます。

次回は懸案となっている協働のまちづくりに戻る形になるのですが、今まではフリートークで協議してきましたが、体系図から見た協働のまちづくりについて協議したいと思います。

まだ一番上の部分しかまだ説明していないので、広報広聴や毛色の違うものも含まれているので、立体的に見ていただいて協議したいと思います。

次回なのですが、2週間後となると17の週になると思います。12月に2回行うのは難しいかもしれないので、今年は残り2回となるかもしれません。

ただ、他の部会との進捗も比べながら相談させていただくことになります。

## ◎市庁内部会部会長

今回は出席人数が少ないので次回だけ決めておきましょう。

## ◎事務局

それでは、皆さんの都合も勘案して、21日（金）に開催したいと思います。場所なども併せて、改めて案内を出したいと思います。

## ◎部会長

次回は21日（金）ということで、12月も1回は開催する予定です。本日はありがとうございました。